

## 令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	遠山郷お試し住宅整備事業
事業主体 (連絡先)	南信濃まちづくり委員会 会長 近藤 力夫
事業区分	その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,486,320 円 (うち支援金: 1,126,000 円)

### 事業内容

- ・空き家(旧木沢駐在所)をお試し住宅として改修し移住希望者が中期滞在できる環境を整備して移住・定住へつなげていく。
- ・テレワークも可能な通信環境の整備も合わせて行うことで、遠山でも仕事ができることを実感してもらう。また地域住民との接点を作り出し、遠山の暮らしを体感していただく。
- ・お試し住宅を利用する前段としてゲストハウス「太陽堂」を短期利用することで地域住民と移住希望者との接点や交流を深める機会を創出し、お試し住宅への誘導を行い移住へのきっかけづくりを地域全体で支えていく。



【お試し住宅 見学会】

### 【目標・ねらい】

- ①空き家の有効活用
- ②移住希望者の受け入れ体制強化
- ③短期的なお試し移住体験

### 事業効果

- ①用途廃止となった旧木沢駐在所を解体ではなくお試し住宅として再利用することで空き家の有効活用の象徴となった。
- ②これまで南信濃地区には移住定住を目的としたお試し住宅がなく様々な移住希望者のニーズに応えることが難しかった。お試し住宅が完成したことで移住定住へのステップアップのツールとしての活用が見込まれ、お試し住宅を介して移住定住へつながっていくことに期待が大きい。
- ③お試し住宅の近隣には旧木沢小学校(名称 飯田市南信濃木沢都市山村交流 促進施設)があり、地元の木沢地区活性化推進協議及び南信州山岳文化伝統の会による地域振興や南アルプスエコ登山に関する様々な取り組みがされていることから、遠山郷と県内外の来訪者との交流・関係人口拡大の拠点となっている。コロナ禍ではあったが、こうした交流拠点の近くにお試し住宅が完成したことで地元住民はもとより来訪者とも交流が生まれることが予想でき、遠山郷ならではの移住体験をしていただくことも可能となった。

### 今後の取り組み

- ・移住希望者がお試し移住を体験できる仕組みを構築することにより、遠山郷お試し住宅を有効活用していく。
- ・移住希望者の利用期間中に移住先の相談や生活習慣・文化などに触れてもらうため南信濃 1500 委員会が中心となってサポートにあたる。
- ・当地区におけるお試し住宅は1棟目であるが、今後はまちづくり委員会の空き家調査と連携して、利用可能な条件、状態な空き家を第2の長期間利用可能なお試し住宅として整備していく計画である。

### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

令和3年度内にお試し住宅の利用開始を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症拡大により移住希望者を受け入れることが出来なかった。コロナ終息後に有効活用できるよう1500委員会を中心に工夫や改善を加えていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある